



ロンドン大学照明科の カリキュラム

私は、渡英して1年間は語学学校に通いました。その後、南ロンドンにあるカレッジの総合舞台技術ファウンデーションコース(いわゆる予備校)に1年間通った後、ロンドン大学に所属する演劇大学 Central School of Speech and Drama (CSSD)の照明デザイン科(学士)に進みました。

イギリスの大学の授業料はヨーロッパでなかったら、とても高いです。予備校の学費は年間50万円程度でしたが、大学の学費は最低でも年間180万円からが普通です。イギリスの大学は、日本の教育システムと違って3年制です。それでもアメリカの私立大学よりはイギリスの私立大学の方が安いようです。私は、3年間の学費をとても払える状況ではなかったので、日本の短大で修得した単位を振替認定してもらい、2年生に編入学させてくださいと大学に交渉しに行きました。そしてその必死な交渉が認められ、めでたく大学の2年次生に編入学することができたのです。イギリスの良いところは交渉すれば意外と難しそうなことが簡単に通ったりするところですよ。

カリキュラムは、大まかに言いますと

「アカデミック理論研究」と「実践・実技」の2分野で編成されています。アカデミックは舞台照明(環境照明、建築照明、映像照明も含む)のメカニズム、物理、理論、要素と歴史、古典演劇と近代演劇、プロダクションの流れと照明の役割、コンピューター上での照明デザイン、ペーパーワーク、視覚デザイン、モデルや風景描写による観点トレーニング、絵画の光分析、電気工学、計算、労働安全衛生規定などです。実技では実験室にてモデルボックスを使って、照明の色や角度の実験をしたり、劇場での仕込み、フォーカシング、操作卓のプログラミング、イントレやハーネスを使ったトレーニング、配線、トラブルシューティング、ビデオメディアや特殊効果も学びます(最後の2つは基礎のみ)。担任の先生以外は、毎週分野によってプロの非常勤講師が教えにきてくれます。1年次は理論、実技の基礎的訓練を通じて学びます。2年次になるとプロの演出家の指導によって音響、照明、装置、演技の学生と組んだプロダクションの中で実際に照明デザインを手がけます。3年次になると、自分の志す分野(演劇、ダンス、オペラや建築等)のプロ、または劇場に短期間、弟子入り/インターンシップをさせ

てもらいます。私は、分野をそこまで絞らずいろいろ経験したいと思っていたので、とりあえずはじめにきたチャンスを掴もうと思っていました。ちょうどその時期に、和太鼓グループがヨーロッパツアーをするので一緒に来ますか?というお話をくださったので、これはほかの国の劇場、仕事ぶりが見れる良いチャンスだと思い、彼らと一緒に2ヵ月間ヨーロッパをツアーすることになりました。そして最後は卒業論文(6千~1万語)です。私は、『照明の色は、観客にどのような影響を与えるか』について執筆しました。

大学で学んでためになったことは、テクニシャンとクリエイティブチームとのコミュニケーションです。言語の使い分け。文化の違いで得ることと損すること。照明は具象的にも抽象的にも創れること。照明は舞台の仕上げを担う、責任重大な仕事で、プロダクションに関わるすべての人とのコラボレーションなしには、公演は成り立たないということ。そして一番良かったことは、失敗できる機会をたくさんもらったことです。失敗も成功も重ねる度に自信に繋がります。

